事例No.	1308
公表年度	R1
団体の属性	町村
団体名	鹿児島県肝付町

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・観光 ・移住定住

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

「ロケット発射場のある町」肝付町へようこそ

出典

関係人口創出・拡大事業（裾野拡大型・裾野拡大（外国人）型）成果報告会

1.地域概要・地域課題・事業に取り組む背景

●地域の概要

地域名：鹿児島県肝付（きもつき）町
人　口：15,139人（2019年12月31日現在）
主要産業：農林水産業

- 肝付町は鹿児島県大隅半島の東側に位置する農林水産業を主産業とする地域で、「はやぶさ・イプシロン」等の打ち上げで注目を集める内之浦宇宙空間観測所を有する町である。現在も年に数回のロケットの打ち上げがある。
- 平成17年7月1日、高山町と内之浦町が合併して肝付町が誕生した。両町はともに、古くは『肝付氏』『島津氏』の治下にあったが、明治4年の廃藩置県と同時に都城県の治下におかれ、明治8年に都城県から鹿児島県に編入されている。明治22年の地方制度改正では高山村と内之浦村となり、昭和7年に高山町・内之浦町としてそれぞれ町制を施行、そして平成の大合併により2町が合併して『肝付町』を施行している。



●解決したい地域課題

- 鹿児島県外で“日本のロケット発射場はどこにある？”と質問すると10人中9人は「種子島」と答える。同じ鹿児島県にあるもう一つのロケット発射場、肝付町の認知度が低い状況である。
- 肝付町でも近年、少子高齢化による人口減少・過疎化が急速に進み、特に若者減少による集落活動の維持が困難となるなど、地域活力の減少が懸念されている。

●本事業に取り組むに至った背景

- 肝付町では肝付町のファンをウチノウラキモツキ共和国国民として登録する制度を2015年度に創設し、これまで約700名の方に国民になっていただいた。
- 2018年度関係人口創出事業は「ウチノウラキモツキ共和国国民（ファン）」との関係構築をテーマに、国民の属性分析や意向調査、交流イベントの実施を行った。その結果から、国民になった方は漠然と町の名前を知っている人ではなく、ロケット打上げ見学等で一度は肝付町を訪問した人、いつかは打上げ見学に行きたいと思っている人が多かった。
- 「肝付町」について詳しく知ることで認知度を上げ、訪れることでファンになる確率が上がると考えることから、2019年度は**“肝付町が”**人口の多い都市部へ出ていくことによって関係人口創出に取り組むことにした。

2. 事業概要

●事業概要

＜ターゲット＞
- 都市部に住む宇宙開発ベンチャー企業や学生ロケット団体等宇宙に関心のある方

＜概要＞
- 人口の多い都市部でPRイベントを行い、肝付町への関心を高める。
- ロケット発射場見学を中心に宇宙開発の歴史探訪や地域との交流を盛り込んだツアーを行い、肝付町と継続的なつながりをもちたい＝ファンになっていただく。

＜実施事項＞
- 「ロケット発射場のある町、宇宙の町　肝付町」のPRイベントを都市部で最大4回行う。
- 地域ツアーを2回実施し、肝付町とのつながりを持ちたいと思えるようなモデルコースを立案する。ツアーは参加対象を社会人と大学生に分けて実施し、参加対象ごとに肝付町への興味を高めるポイントを探る。

●地域の理想の姿

- 種子島以外にもロケット発射場があることを全国の方が知り、その発射場を見学に行くために肝付町を訪問する人口が増え、地域が活気づいていく。

●理想を実現するための本年度事業の位置づけ

- 都市部での肝付町PRイベントや地域ツアーを実施することで「肝付町」の認知度を高め、肝付町の関係人口を増やす。

●本年度の目標

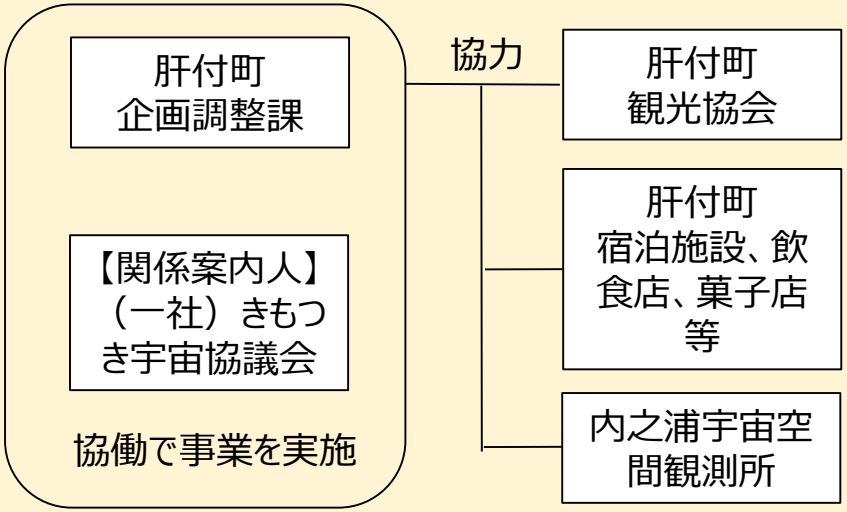
- 東京地区でのPRイベント：2回
- 大阪地区でのPRイベント：2回
- 学生向けモニターツアー参加数：20人
- 社会人向けモニターツアー参加数：20人



3.事業実施体制・スケジュール

●事業実施体制（受け入れ体制を含む）

- 肝付町企画調整課と、「関係案内人」として一般社団法人きもつき宇宙協議会が連携しながら実施する。
- きもつき宇宙協議会は、肝付町を「宇宙の町」として全国にPRするために肝付町内外の有志によって2017年4月から活動を開始し、肝付町のファン（関係人口）を増やすための活動や県内外でのPR活動を行っている。2018年10月に一般社団法人を設立。メンバーは肝付町住民をはじめ、宇宙開発に関する専門家等により構成されている。



●スケジュール

- 大阪地区でのPRイベントの開催時期が会場の都合等により当初予定（7月～10月実施）より遅れたが、事業期間内に実施できたため、全体のスケジュールに与える影響は少なかった。

実施事項	5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1 各種イベント、ツアー等募集広報、参加者募集						募集・広報の戦略策定、事前打合せ等			ＨＰやチラシ等で告知、受付															HPやFBで告知								
2 ＰＲイベント開催・準備							東京でのイベント準備・調整						★									大阪でのイベント準備・調整			★							
3 地域ツアーの開催・準備									学生向けモニターツアー実施準備				★			社会人向けモニタツアー実施準備						★										
4 成果分析（参加者アンケート・報告書作成等）													アンケート		★							アンケート	アンケート分析 成果報告書作成		アンケート		最終とりまとめ	★	報告書提出			

「関係人口創出・拡大事業」（裾野拡大型・裾野拡大型（外国人型））成果報告会

4.事業の「ターゲット」

●事業のターゲット

- 宇宙開発ベンチャー企業や大学生による学生ロケット団体など宇宙に関心のある方。
- 肝付町にロケット発射場があることを知っていて、一度行ってみたいと思っている方。
- 鹿児島は遠いので、どのように行けばよいのかわからないと思っている方。





●参加者募集のターゲットの設定経緯

- 肝付町では2015年に「スペースサイエンスタウン構想」を策定し、「宇宙科学」関連資源を最大限に活用したまちづくりを行うためのビジョン、施策をまとめている。
- 構想では長期的な目標として町への宇宙科学産業関連企業の誘致を計画しており、関係人口の取り組み等を通じて肝付町を知り、来ていただき、将来的には宇宙産業等の担い手として町への移住、定住につなげたいと考え、ターゲットの設定に至った。

●ターゲットへの広報・アプローチ

【実施事項】

- ウチノウラキモツキ共和国のホームページやFacebook（きもつき宇宙協議会運営）、及びチラシを利用して東京や大阪のPRイベント実施についての告知
- ウチノウラキモツキ共和国国民（ファン）の方への案内メールの送付
- きもつき宇宙協議会メンバーを通して学生ロケット団体へ学生向けモニターツアー実施に関する案内メールの送付
- 東京PRイベント会場にて社会人向けモニターツアーのチラシ配布と説明

【成果・効果】

- イベントの周知をHPやSNSで行ったが、ネットを利用しない方へのアプローチを検討する必要がある。引き続きSNSを活用するとともに、DMのハガキを利用することも検討する。
- モニターツアーの呼びかけは、PRイベント会場で肝付町の紹介とともにお知らせすると集客に効果的であった。



5.関係人口の活動内容

●参加者（関係人口）が取り組んだ活動の内容

＜学生向けモニターツアー＞
【日時】2019年9月18日（水）～9月20日（金） ２泊３日
【参加数】15名
【対象】都市部の大学生、特に宇宙に関心のありそうな学生

- 比較的時間のある大学生には2泊プランを用意し、より深く「ロケット発射場のある町」を印象付けるツアーを実施。
- 一日目は内之浦宇宙空間観測所の施設見学。平日のため観測所職員の方に協力いただき、ロケット発射場近くまで見学することができた。
- 二日目は辺塚（へつか）海岸へ。この海岸は2019年9月に鹿児島大学を中心に開発した「鹿児島ロケット」を打ち上げた場所であり、地元住民の協力について説明を行った。また内之浦にロケット発射場が出来た頃から支援してきた元婦人会会長の方のご自宅を訪問し、当時の写真や新聞記事を拝見しながら地元住民がどのように応援してきたのか話を伺った。夜には肝付町企画調整課職員との懇親会を行い、スペースサイエンスタウン構想について語り合った。
- 最終日は肝付町の自然や歴史を紹介。古墳群や樹齢1300年といわれる大楠、高山城跡、900年余り続く伝統行事「流鏑馬」を行う神社を見学した。
- 肝付町を初めて訪問した方が「第二のふるさと」というほどファンになっていた。また「『ロケットの聖地』で学生ロケットの打ち上げができれば大学生は喜んで内之浦に来る」、「いつか自分が開発したものを肝付町から打ち上げる日が来るように頑張る」、「参加者で具体的に（町おこしの）プランを考えるワークをやってみたら面白かったのでは」といったコメントが寄せられた。








6.活動の成果

●本年度の目標達成状況

- 東京地区でのPRイベント：2回
  →2019年9月7日（土）、8日（日）実施
  来場者数100名
- 大阪地区でのPRイベント：2回
  →2020年1月18日（土）、19日（日）実施
  来場者数700名
- 学生向けモニターツアー参加数：20人
  →参加数15人
- 社会人向けモニターツアー参加数：20人
  →参加数26人

✓ 学生向けモニターツアーの実施時期が大学の後期開始と重なり、参加数は目標に達しなかった。
✓ 社会人向けモニターツアーは土日に設定したこと、夫婦での参加が多く、目標を大きく上回った。

●関係人口の地域との関わり方

- 肝付町の「スペースサイエンスタウン構想」について参加学生に説明したところ、“肝付町に民間ロケット発射場を作ろう”など**肝付町の将来像について積極的に語り合う**姿があった。参加した学生の間では現在もSNSを通じて宇宙関連の話題で交流しているようである。
- 社会人向けモニターツアーでは**肝付町でお土産を買いたい**というリクエストがあり、焼酎や食品等の購入が目立った。社会人のほうが購買意欲がある。次はゆっくり鹿児島県内や大隅半島をめぐってみたいというコメントがあった。
- 今後も肝付町を応援したいと**ウチノウラキモツキ共和国国民になったツアー参加者**が複数いた。特に社会人の方に多かった。



●その他の成果

- 東京のPRイベントは単独実施であったが、大阪のPRイベントは複数の団体と共同で「宇宙イベント」として実施した。複数の団体と共同で実施することで来場者、特に家族連れを呼び込む効果があった。
- 社会人向けモニターツアーに関西地区から参加した方たちが大阪でのPRイベントに応援に来てくださり、肝付町の見所を来場者へ説明してくださる場面があった。



7.課題への対応

●事業で直面した課題とその対応策･解決方法

＜地域ツアーのトイレ休憩場所について＞

- 学生向けモニターツアーのアンケート結果に、トイレ休憩の回数について記述があり、肝付町内の観光スポットにバスを止められる休憩場所やトイレが少ないことに気付いた。個人の観光客はコンビニエンスストアや店舗に立ち寄ることができるが、バスでは難しい場合もある。
- 2回目に実施した社会人向けモニターツアーでは訪問先の順路を変えてトイレ休憩の場所や時間間隔を見直したが、アンケート結果には適度な休憩を求める記述が数件あった。







●今後の課題と対応方針

- 肝付町はロケット発射場だけでなく、古墳や山城跡など歴史や自然に関する屋外の観光スポットが多いことから、バスが立ち寄れるトイレ休憩場所の増設を検討していく。
- PRイベントで初めて肝付町を知り、訪問してみたいという声も多かった。その際、どのような交通手段、ルートで肝付町へ行けばよいかわからないという声も多かったので、東京のPRイベント時（9月実施）に社会人向けモニターツアー（11月実施）を紹介したところ集客に効果的であった。PRイベントと地域ツアーの開催／実施をセットにすることが効果的かどうか今後検証していく。





8.将来への展望

●来年度以降の関係人口とのかかわり方

- すでに肝付町のファン（ウチノウラキモツキ共和国国民）の方、また本年度の事業で関係性が深まった方達を通じてさらに肝付町の関係人口が増えるよう、メールやSNS等で情報を発信し、関係を継続していく。





●「関係人口」施策の展望

- PRイベントのアンケート結果から、展示をみて肝付町へ行ってみたいと思った方が9割以上いることがわかった。都市部在住の方は運転免許を持たない方も多いので、鹿児島空港（航空機利用）、鹿児島中央駅（新幹線利用）、志布志港（フェリー利用）へ到着したあとの、肝付町へ行くための手段として地域ツアーを旅行会社へ提案または独自企画するなど、肝付町に来てもらうことでファンになる機会を増やし、将来的には移住、定住につなげられるような関係人口の創出を継続的に実施していきたい。

